

第4回 神戸市外郭団体監理に関する検討委員会

1. 日 時 : 平成27年3月10日(火) 10:00~11:00

2. 場 所 : 1号館14階1141会議室

3. 要 旨

- ・外郭団体監理に関する検討委員会開催要綱第5条に基づき、会議の公開が確認された。
- ・委員長より議事に入る旨の発言があり、事務局から会議資料の説明を行った。
- ・会議における委員等の主な発言は以下のとおりであった。

<意見まとめについて>

○ヒアリングに行ってみて、各団体が頑張っていることが分かったが、団体の現場の声が市に十分に届いていないと感じる部分もあった。市と団体の意思疎通がもっとスムーズになったらいいと思う。

○市民のためにとっても有意義な事業をしている団体が多い一方で、内部統制などの面で、十分でない部分がある団体もいくつかあった。団体内部の人だけで団体経営を行っている場合は、どうしても外の情報が入ってきにくいという弊害がある。例えば、社外取締役などが独立した立場で意見を言えば、その弊害を埋められるのではないかと。団体が今持っている人材を活用すればもっとよくなる。

○これまで、外郭団体や市がそれぞれ独善的になっていた部分もあり、うまくかみ合っていなかった部分もあったが、これからは神戸市グループ全体としてうまく回ってほしい。今回の意見まとめはそのための一つのステップであり、ゴールではなく、次のステップに進むためのスタートだと考えてもらいたい。

○この意見まとめを外郭団体や市民の方などに幅広く読んでいただくためには、一部の専門用語が難しいように感じる。指定管理制度やPFIなどの専門的な用語については、説明をつけた方がよい。

○外郭団体の実施している事業について、市民がどれくらい知っているのか。せっかく有意義な事業をしているのだから、市の内外問わず、もっと宣伝した方がいいと感じる。

○今後、活用の可能性がある外郭団体を支援していくにあたり、市のどこのセクションが包括的に責任を持って対応していくのか。所管局だけに「頑張る」というのでは、これまでとあまり変わらず、取り組みとして不十分である。ある程度全庁的に監理していく必要があるのではないかと。

○所管局と言っても、ひとつの局で検討できることには限界があるのではないかと。神戸市グループの全体を見渡して、長期的スパンで検討する必要もあるのではないかと。

○非財政的な部分、例えば、外郭団体が提供する公的サービスの質までチェックしていくのか、というのもひとつの課題である。市が直接提供しているサービスについては、事務事業評価などを実施しているだろうが、市は、市と外郭団体が、それぞれどんなコストでどんな公的サービスを提供しているのか把握する責任があるのではないかと。意見のとりまとめの中にもあるように、市が実施している事業も含めて、神戸市全体として最適化していくために、今後どういう取り組みをしていくのか、理念だけでなく実際に行動にうつせる仕組みをつくる必要がある。

○チェック項目の中の指標について、何パーセント以上なら合格といった基準を定めるのか。団体ごとに性質が違うので難しいと思うので、政令市や近隣自治体などの類似団体と比較できるよう、うまく評価につながる方法を検討しないといけない。

○外郭団体も市に対して意見を言いやすいように、市は上から目線で監査・監督するだけでなく、団体を育成していくという視点も持った方がいいのではないか。

○これまでの見直しが一段落した現時点の考え方として、「事業の民間移管を進めて団体を縮小の方向に持っていく」もしくは、「団体にチャンスを与えて、市は人的・財政的な面で投資を行い、長期的に見て団体が成長していくよう機能強化を図る」の2点がある。

○外郭団体に対して、短期的な経済性だけを見るのではなく、長期的な視点で市民にとってプラスにならないといけない。企業経営においても、目先の配当ではなく、長期的な視点で会社が成長していけるような投資をするという考え方も増えてきている。目先の利益だけでなく、長期的な視点でいい企業にしていけるのは株主の責任でもあり、時代に合ったやり方である。

○全体としては、頑張っている団体が多かったという印象を受けた。他都市よりも事業について真剣に考えている団体も多かった。他都市に比べて神戸市は多種多様な団体をもっているので、活用に舵を切るのもひとつの方策である。一方で、漫然と経営を続けているとダメになってしまう団体もあるという危機感も必要。

○誰かが長期的視点で外郭団体について判断・決断することが必要になるが、その場合は、政策判断ということになるだろう。

<今後について>

事務局) 委員会は今回をもって終了である。なお、意見まとめについては、本日の委員会で出た意見も含め、委員長預かりとし、事務局と調整のうえ、最終版とさせていただく。